

## 平成27年度第3回地方独立行政法人京都市立病院機構理事会の概要

- 日 時： 平成27年6月30日（火） 午前10時30分～12時00分
- 場 所： 京都市立病院 5階会議室
- 出席者： 理事長 森本 泰介  
理 事 森 一樹，黒田 啓史，桑原 安江，大森 憲，位高 光司，山本 壯太，  
能見 伸八郎，木村 晴恵  
監 事 中島 俊則，長谷川 佐喜男  
事務局 山本経営企画局次長，長谷川事務局担当部長，高橋経営企画課長，  
竹内総務課長，北川京北病院事務長

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 平成26年度決算（案）について

##### 〈財務諸表等について〉

- 旧北館等解体撤去工事費用の会計上の処理について補足説明  
→・ 会計上の処理として、従前から自己が所有していた建物を解体して建て替えた場合には、除却費用として「臨時損失」に計上することになるが、他人から建物を購入して建て替えた場合には、固定資産勘定として計上することになる。
- 貸借対照表の「Ⅱ 流動資産」科目のうち、「営業未収金」と「未収金」はどのような違いがあるのか。また、「営業未収金」に収入見込みはあるのか。  
→・ 「営業未収金」とは、主として診療報酬債権である。「未収金」とは、主として京都市からの運営費交付金である。診療報酬については、翌月に前月分を締めたうえで請求することになるので、2か月程度遅れるものの、確実に収入することができる。
- 資料1-1「財務諸表等」の7頁にある「行政サービス実施コスト計算書」について、「Ⅳ 行政サービス実施コスト」が約26億円となっているが、京都市から運営費交付金で賄われるのか。  
→・ 運営費交付金は繰出基準に基づいて算定されており、行政サービス実施コストの全てが京都市からの運営費交付金で賄われているわけではなく、運営費交付金の方が低い。

##### 〈平成26年度 事業報告書について〉

- 平成26年度年度計画評価の基準は、これまでと同様か。また、26年度に初めてA評価に至った項目もいくつかあるが、これまでの取組の成果によるものなのか。  
→・ 評価基準はこれまでと同様である。
  - ・ 第1期中期計画の最終年度である26年度までに中期目標の達成を目指しており、これまでは道半ばということでB評価を行ってきた部分もあり、最終年度に当たって振り返ってみたときに、「計画を十分に達成している」としてA評価とした。
- 第2-8「ボランティアとの協働や市民モニターの活用」について、25年度はA評価だったにもかかわらず、26年度はB評価となっているのはなぜか。

- ・ ボランティア登録数は年々増加しているにもかかわらず、実際に活動に従事したボランティア数は25年度と比べて減少していることから、課題があるものと考え、あえてB評価とした。
- 第4-2「コンプライアンスの確保」や第4-4「個人情報の保護」について、なぜB評価からA評価に変わったのか。
  - ・ 機構理念や倫理方針を策定したほか、個人情報保護委員会の運営、部署別の個人情報保護管理者の設置、各種研修の実施等を総合的に考慮して、A評価とした。
  - ・ SPC関係職員も含めたコンプライアンス及び個人情報保護体制（枠組み）を整えたことを重視した。
- 第1-1-(3)「救急医療」について、救急車搬送受入れ率が目標値に達していないにもかかわらず、A評価としているのはなぜか。また、診療拒否やたらい回しのような事態は起こらないのか。
  - ・ 救急車搬送受入れ患者数が増加しているが、市全体の救急搬送数も増加しており、結果として受入れ率が伸びていない。  
また、第1期中期計画で目標として掲げた救急搬送受入れ患者数は4,000人で、26年度はさらに高い6,400人を目標にしていたが、それを大幅に超える6,787人を受け入れたことを評価した。
  - ・ 体制上受入れができない場合を除いて、診療拒否やたらい回しのような事実は一切ない。
- 第2期中期計画期間に入り、今後より一層機構のイメージカラーを明確に打ち出し、外部に情報発信していく必要がある。私としては、職員の「顔が見える病院」を目指してほしい。
- 第1-4-(3)「安全で安心できる医療の提供に関すること」について、医療安全に係る取組を充実させているにもかかわらず、なぜB評価のままなのか。
  - ・ 筋弛緩剤の紛失事故があり、内容の重大性にかんがみて、B評価にとどめた。
- 第2-7「職員満足度の向上によるサービスの質の向上」について、職員がどのように組織に貢献しているのかが見えにくい。
  - ・ 職員満足度調査は毎年行っており、職員が働く理由については「生活や家計を維持するため」といった金銭経済に関する理由が上位を占めていたが、回を重ねていくなかで、「達成感を得たい」や「能力を試したい」といった趣旨の理由が増えてきている。第2期中期計画期間において、このような職員の意識が組織貢献に具体的に現れてくることを期待している。

## **(2) 第1期中期目標期間事業報告書（案）について**

### **3 報告等**

#### **(1) 経営状況月次（5月分）報告**

### **4 閉会**